

知的・発達障害 特性知って

熊本市手をつなぐ育成会

突然、大声を出すなど周囲から見ると予想外の行動を取ることもある知的・発達障害者。当事者は日常生活でどんなことに困っているのか、世の中がどう見えているのか。親たちでつくる社会福祉法人熊本市手をつなぐ育成会は問題行動と捉えず、障害があるかもしれないと考えてほしい」として、当事者の受け止めや特性への理解を求め、どう接したらいいのかを訴える。

(横川千夏)

「リンゴ」や「ボール」といった具体的な物であれば、誰でもイメージして絵に描くことができる。一方で「ちょっと」や「そのへん」「普通」と抽象的な言葉になると、人それぞれ浮かぶイメージが違う。

知的障害者らにとっては「そのへんに置いて」と言われても、どの場所を示しているのか分からない人もいる。抽象的な表現は避けて「テーブルの上」や「冷蔵庫の前」など具体的に伝える必要がある。

「ダメ」と言うことはパニックを起す原因になりかねない。例えば「走ったらダメ」と否定すると、ますます走ってしまうこともある。歩きましょつね」「隣の部屋でお話をしてくるかな」と話しかけ、やるべきことを具体的に示すことが大切だ。

突然の大きな音や大声に驚いたり、体に触られたり押さえ付けられたりする人が苦手な人がいる。嫌な思いをしなくても、言葉にして相手に訴

予想外の行動 思い巡らせ対応を

えることが難しい人もいる。気持ちが悪くわつくと、ジャンプしたり体を前後に揺らしたりして、落ち着こうとする。そういう時は「大丈夫だよ」と

と優しく声をかけながら、静かで刺激がない場所で落ち着かせるようにした方がいい。何かを聞かれた時に「はいや」「うん」と答え、「いいえ」と言わない人が多い。「あなたは〇〇をしたのですか」という質問の後、「あなたは〇〇をしていないのですか」という反対の質問もしてみると、両方に「はい」と答えることがある。言うことが矛盾していると思ったり、うそをついているのではないかと疑ったりせず、障害の存在を考慮することが重要だ。

「一つの物事に集中するあまり、ほかのことが見えなくなってしまう」「シングルフォークス」という特性もある。店頭でお目当ての食べ物を見つけたら、「食べたい」という思いが勝ってしまったら、さらさらした髪的女性を見ると、「触って確かめたい」と感じてしまったりする。見た目には障害があると分らないため、周囲から見ると特異な行動に見えてしまう。問題行動や迷惑行為と捉えられる場合もあるが、「もしかししたら知的・発達障害がある人かもしれない」と思いを巡らせて対応するよう呼びかける。

当事者の困り事 疑似体験 熊本市でワークショップ

知的・発達障害者の親たちでつくる社会福祉法人熊本市手をつなぐ育成会は、当事者の特性や困り事を疑似体験するワークショップを開き、接し方についても伝えている。

10月中旬、熊本市中央区の本県警察学校であったワークショップ。講師で育成会の西恵美会長(66)が初任科生約40人に「指令書を見たら、『くま語』で隣の人に伝えてください」と呼びかけた。

「くま語」とは、相手に話しかける時に「くま」とだけ言って意思疎通を図る言葉。初任科生は「ペンを貸して」や「傘を貸して」などの指令を伝えながら、指令の内容が分かってももらえないはずはなく、聞く側も何を言っているか理解できない。自分の考えが伝わらないものどかしさと、人の話を理解するのが困難な知的・発達障害者の経験を知ってもらおうが狙いだ。

一瞬の判断能力や一つのこと

に集中して周りが見えなくなってしまう「シングルフォークス」も体験。西会長は「個性は誰もが持っている。個性と発達障害の特性に境目はない。『困った人』ではなく、『困っている人』と考えてもらいたい」と訴えた。初任科生の吉永真桜さん(18)は「知的障害という言葉は知っていたが、どんな特性があるか知らなかった。警察官として当事者の対応をすることがあると思うので、パニックを起こさないように優しく話しかけたい」と語った。

育成会は2019年度から、市内の小中学校や高校など年間約10カ所で行くワークショップを開いている。今年4月施行の改正障害者差別解消法は、車いす移動や意思疎通のサポートなどで過度な負担にならない範囲で対応する「合理的配慮」を企業に義務付けた。法改正をきっかけとして、西会長は「今後は一般企業にも出向きたい」と話す。

知的・発達障害のある人の特性例

- 「ちょっと」「そのへん」といったあいまいな言葉に戸惑う
- 動揺すると、ジャンプしたり体を前後に揺らしたりして落ち着こうとする
- 一つの物事に集中すると、ほかのことが見えなくなってしまう

知的・発達障害のある人への合理的配慮

- 優しく声かけをして落ち着いてもらう
- 話しやすい環境を提供する(ただし無理はしない)
- 障害者手帳や通っている事業所が分かれば、家族や支援者を呼んで話を聞く

※熊本市手をつなぐ育成会の資料を基に作成



熊本県警察学校の初任科生に、知的・発達障害者の特性について説明する熊本市手をつなぐ育成会の西恵美会長。10月、同市中央区